

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月10日

【四半期会計期間】 第158期第3四半期（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）

【会社名】 日本カーボン株式会社

【英訳名】 Nippon Carbon Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伊東 郁夫

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋二丁目14番1号

【電話番号】 03（6862）6110（大代表）

【事務連絡者氏名】 執行役員 業務管理部長 今井 浩二

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋二丁目14番1号

【電話番号】 03（6862）6110（大代表）

【事務連絡者氏名】 執行役員 業務管理部長 今井 浩二

【縦覧に供する場所】 日本カーボン株式会社大阪支店  
（大阪市北区西天満4丁目11番22号（阪神神明ビル内））  
株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第157期 第3四半期 連結累計期間	第158期 第3四半期 連結累計期間	第157期
会計期間	自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日
売上高 (百万円)	21,288	16,503	28,891
経常利益又は経常損失 ( ) (百万円)	1,240	1,049	1,884
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 ( ) (百万円)	649	1,286	1,076
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	589	1,940	1,216
純資産額 (百万円)	36,772	34,102	36,617
総資産額 (百万円)	56,860	55,315	59,043
1株当たり四半期 (当期) 純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	5.72	11.60	9.51
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	55.8	52.3	53.3

回次	第157期 第3四半期 連結会計期間	第158期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	0.35	11.09

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益又は四半期純損失( )」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )」としております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

（炭素製品関連）

当第1四半期連結会計期間よりNippon Kornmeyer Carbon Group社（旧社名：KOGO Kornmeyer Graphit社）を株式の取得により持分法適用の範囲に含めております。

また、これまで持分法適用の範囲に含めておりました日本カーボン・メルセン株式会社は平成28年9月29日付けで清算終了となりました。

この結果、平成28年9月30日現在では、当社グループの連結子会社は9社、持分法適用会社は1社となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） セグメント情報」の「 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照下さい。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定及び締結はありません。

### 3【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の金融・経済政策による企業収益の改善や、雇用・所得状況の向上など、総じて緩やかな回復傾向が続きました。しかしながら、今後の企業収益の伸びに対する慎重な見方から、個人消費の拡大に鈍化傾向が見られる状況にあり、依然先行きは不透明な状況が継続いたしました。

また、世界経済は、欧州では英国のEU離脱問題、アジアでは中国の急激な景気減速懸念、米国では利上げの時期および大統領選挙の行方など、先行きについての不透明感が拡大しております。

当社グループを取り巻く事業環境は、激化する競争の中、厳しい状況で推移しました。このような状況の中、「新しい技術への挑戦と製品の高付加価値化」を推進し、新たな時代を切り開く屈強な収益体質をグループを挙げて確立する方針の下、収益性の高い高付加価値製品の展開および海外展開の強化、コスト削減活動等の諸施策にグループ一丸となって取り組んでまいりました。

しかし、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高165億3百万円（前年同四半期比22.5%減）、営業損失9億7千2百万円（前年同四半期は13億5千9百万円の営業利益）、経常損失10億4千9百万円（前年同四半期は12億4千万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失12億8千6百万円（前年同四半期は6億4千9百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (炭素製品関連)

電極部門は、国内については電炉業界の需要の低迷が続き、海外についても価格競争により販売価格が下落する状況が日を追って拡大しており、非常に厳しい事業環境が続いております。

当社は安易な価格競争には参加しないという方針を引き続き堅持した結果、販売数量、売上金額ともに大幅な減少となりました。

ファインカーボン部門は、半導体市場、太陽電池市場の一部に回復が見られ、炭素繊維および特殊炭素材料の販売は堅調に推移しました。リチウムイオン電池負極材の販売も堅調に推移しております。

この結果、売上高は151億1千2百万円（前年同四半期比22.5%減）、セグメント損失（営業損失）は12億5千4百万円（前年同四半期は9億1千9百万円のセグメント利益）となりました。

#### (炭化けい素製品関連)

炭化けい素繊維の販売は計画通りに推移しております。売上高は7億9千6百万円（前年同四半期比7.0%減）、セグメント損失（営業損失）は7百万円（前年同四半期は5千万円のセグメント利益）となりました。

(その他)

産業用機械の製造・販売は堅調に推移しましたが、不動産賃貸は昨年11月末の所有物件の賃貸オフィスビル（ニューステージ横浜）の売却により減収となった結果、売上高は5億9千4百万円（前年同四半期比36.9%減）、セグメント利益（営業利益）は1億1千9百万円（同45.6%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、553億1千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ37億2千8百万円の減少となりました。流動資産は、たな卸資産17億6千3百万円の減少、受取手形及び売掛金17億5千4百万円の減少並びに現金及び預金17億4千6百万円の減少等により、285億3千万円と前連結会計年度末に比べ48億8千8百万円の減少となりました。固定資産は、新規設備の投資等による建設仮勘定13億8千5百万円の増加により、267億8千4百万円と前連結会計年度末に比べ11億5千9百万円の増加となりました。

負債は212億1千2百万円となり、前連結会計年度末に比べて12億1千2百万円の減少となりました。流動負債は、その他に含まれる設備関係未払金12億7千1百万円の減少、支払手形及び買掛金12億4千3百万円の減少並びに短期借入金8億1千5百万円の減少により、126億5千9百万円と前連結会計年度末に比べ44億3千9百万円の減少となりました。固定負債は、長期借入金37億3千9百万円の増加により、85億5千3百万円と前連結会計年度末に比べ32億2千6百万円の増加となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失12億8千6百万円、配当金の支払い15億5千4百万円並びにその他有価証券評価差額金6億2千3百万円の減少により、前連結会計年度末に比べ25億1千5百万円減少し、341億2百万円となりました。

(3) 研究開発活動

当社グループの当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は2億円（全額炭素製品関連セグメント）であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成28年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	118,325,045	118,325,045	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式。 単元株式数1,000株。
計	118,325,045	118,325,045	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日	-	118,325,045	-	7,402	-	1,851

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 7,416,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 110,378,000	110,378	同上
単元未満株式	普通株式 531,045	-	同上
発行済株式総数	118,325,045	-	-
総株主の議決権	-	110,378	-

- (注) 1. 単元未満株式には、当社所有の自己株式682株が含まれております。  
2. 「完全議決権株式（その他）」の普通株式には、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1千株（議決権 1個）含まれております。  
3. 「完全議決権株式（その他）」の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が15千株（議決権 15個）含まれております。

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合（％）
（自己保有株式） 日本カーボン株式会社	東京都中央区京橋 2 - 1 4 - 1	7,416,000	-	7,416,000	6.27
計	-	7,416,000	-	7,416,000	6.27

- (注) 「自己名義所有株式数」のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1千株あります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	10,830	9,083
受取手形及び売掛金	7,894	6,140
商品及び製品	8,109	6,716
仕掛品	3,651	3,634
原材料及び貯蔵品	1,906	1,553
その他	1,027	1,406
貸倒引当金	0	4
流動資産合計	33,419	28,530
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	12,235	12,870
減価償却累計額及び減損損失累計額	7,494	7,658
建物及び構築物(純額)	4,741	5,212
機械及び装置	37,841	38,343
減価償却累計額及び減損損失累計額	32,273	33,441
機械及び装置(純額)	5,568	4,901
車両運搬具及び工具器具備品	2,758	2,818
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,417	2,502
車両運搬具及び工具器具備品(純額)	341	315
土地	3,938	3,889
建設仮勘定	3,918	5,303
有形固定資産合計	18,508	19,621
<b>無形固定資産</b>		
無形固定資産	115	162
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	4,654	4,995
その他	2,382	2,040
貸倒引当金	36	35
投資その他の資産合計	7,000	6,999
固定資産合計	25,624	26,784
資産合計	59,043	55,315

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,985	2,741
短期借入金	8,784	7,968
未払法人税等	531	107
賞与引当金	129	302
役員賞与引当金	39	5
その他	3,627	1,534
流動負債合計	17,098	12,659
固定負債		
長期借入金	2,160	5,900
退職給付に係る負債	1,599	1,371
役員退職慰労引当金	69	78
環境対策引当金	22	22
資産除去債務	73	73
その他	1,402	1,108
固定負債合計	5,327	8,553
負債合計	22,425	21,212
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,402	7,402
資本剰余金	7,800	7,800
利益剰余金	16,237	14,395
自己株式	1,824	1,824
株主資本合計	29,615	27,774
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,905	1,282
為替換算調整勘定	62	11
退職給付に係る調整累計額	106	93
その他の包括利益累計額合計	1,861	1,177
非支配株主持分	5,139	5,150
純資産合計	36,617	34,102
負債純資産合計	59,043	55,315

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	21,288	16,503
売上原価	16,895	14,951
売上総利益	4,393	1,552
販売費及び一般管理費	3,034	2,525
営業利益又は営業損失( )	1,359	972
営業外収益		
受取配当金	50	55
保険差益	20	108
その他	85	56
営業外収益合計	157	220
営業外費用		
支払利息	60	63
支払手数料	62	-
為替差損	102	91
持分法による投資損失	-	95
その他	51	47
営業外費用合計	276	297
経常利益又は経常損失( )	1,240	1,049
特別利益		
受取補償金	-	173
特別利益合計	-	173
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	1,240	876
法人税、住民税及び事業税	399	211
法人税等調整額	231	107
法人税等合計	631	318
四半期純利益又は四半期純損失( )	609	1,194
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主 に帰属する四半期純損失( )	40	92
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失( )	649	1,286

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	609	1,194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47	625
繰延ヘッジ損益	51	-
為替換算調整勘定	36	133
退職給付に係る調整額	11	13
その他の包括利益合計	20	745
四半期包括利益	589	1,940
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	645	1,970
非支配株主に係る四半期包括利益	56	29

【注記事項】

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、新たに株式を取得したNippon Kornmeyer Carbon Group社(旧社名:KOGO Kornmeyer Graphit社)を持分法の適用の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第445項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
受取手形	114百万円	-
支払手形	193 "	-
設備関係支払手形	8 "	-

(四半期連結損益計算書関係)

受取補償金

当該受取補償金は、山梨市駅南口開発計画に係るものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
減価償却費	1,827百万円	1,795百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年3月30日 定時株主総会	普通株式	568	5.00	平成26年12月31日	平成27年3月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年3月29日 定時株主総会	普通株式	554	5.00	平成27年12月31日	平成28年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	炭素製品 関連	炭化けい素 製品関連	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,490	856	941	21,288	-	21,288
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	0	262	262	262	-
計	19,491	856	1,203	21,551	262	21,288
セグメント利益	919	50	219	1,188	170	1,359

(注)1 セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と同額であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	炭素製品 関連	炭化けい素 製品関連	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,112	796	594	16,503	-	16,503
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	8	504	517	517	-
計	15,117	804	1,098	17,020	517	16,503
セグメント利益又はセグメント損失( )	1,254	7	119	1,443	170	972

(注)1 セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は四半期連結損益計算書の営業損失( )と一致しております。

報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来の報告セグメントである「炭素製品関連」セグメントの区分を「炭素製品関連」セグメントと「炭化けい素製品関連」セグメントに区分しております。

これは、前第3四半期連結会計期間後に「炭化けい素製品関連」セグメントの重要性が増したことにより、経営管理区分を見直したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間より、従来の「不動産賃貸関連」について量的な重要性が乏しくなったため報告セグメント「その他」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

## ( 1株当たり情報 )

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	5円72銭	11円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (百万円)	649	1,286
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (百万円)	649	1,286
普通株式の期中平均株式数(千株)	113,542	110,908

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月7日

日本カーボン株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 飯 野 健 一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 本 哲 生 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本カーボン株式会社の平成28年1月1日から平成28年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本カーボン株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。